

## 「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成」事業結果報告書

大 学 名	九州大学
取 組 名 称	周産期ゆりかごネットプロジェクト
取 組 期 間	平成21年度～平成25年度（5年間）
事業推進責任者	総合周産期母子医療センター長 田口 智章
W e b サイト	<a href="http://www.med.kyushu-u.ac.jp/yurikago/">http://www.med.kyushu-u.ac.jp/yurikago/</a>
取 組 の 概 要	世界最高の水準を誇る日本の周産期医療は、極度のマンパワー不足から危機に瀕している。専門性の高い周産期医療を担う若い医師・助産師・看護師を育成するには、大学が女性スタッフも復帰しやすい職場環境への改革を実践し、地域と連携して教育体制を確立する必要がある。周産期ゆりかごネットプロジェクトでは、高度な周産期チーム医療を実践できる人材を養成し、スタッフの労働環境を改善しながら安全で質の高い周産期医療を継続供与する体制を確立することを目的とし事業を推進した。①医師、看護師の一貫教育、②新生児専門医師・看護師養成、③母子の成育精神医療専門医師・看護師養成、の3プログラム中心としてインターネットカンファレンスや救急講習会等を開催し、地域の関連施設と連携した医学教育や周産期医療システムを構築するとともに周産期医療をリードする優秀な女性医療人の養成に努めた。

### 取組の実施状況等

#### I. 取組の実施状況

##### (1)取組の実施内容について

##### 1. 医師、看護師の一貫教育

周産期医療をリードする優秀な人材を養成し、地域の周産期体制を維持し向上させることを目的として教育プログラムを策定した。特に周産期関連の新しい知見・研究の進展などをテーマとして毎月「ゆりかごネットカンファレンス」を開催し、福岡県内と大分県、山口県の総合周産期母子医療センターを中心に15施設を繋いだインターネットカンファレンスを行うとともに各地域の患者状況の綿密な連携のためにインターネット会議を開催した。



ゆりかごネットカンファレンス



インターネットカンファレンス風景

##### 2. 周産期専門医師・看護師養成

周産期医療に関わる医師看護師の特殊な専門技術や知識の習得と向上のために教育プログラムを策定し、教育計画に沿って人材育成を行った。新生児心肺蘇生法講習会を定期的に行い、学内と学外のスタッフの専門教育を行った。特に産休や育休から復帰予定あるいは新たに復帰した女性医師がスムーズに復職できるよう、各人の医療水準に合わせた診療教育を行い、医学技術と知識の向上に努めた。さらにまた臨床遺伝カウンセリングの知識と技術を教育し、臨床遺伝の専門医の育成に努めた。

### 3. 母子の成育精神医療専門医師養成

低出生体重児は長期的に発達の遅れや学習障害などの様々な発達障害のリスクが高いことが報告されており、発達障害専門医による早期診断・早期対応が必要と考えられていることから、新生児科医、小児神経科医、児童精神科医、臨床心理士による合同カンファレンスを開催し、患者さんの問題点を検討するとともに、心のケアに対応できる医療スタッフの育成に努めた。

### 4. 臨床遺伝専門医養成

さまざまな遺伝性疾患を持って生まれてくる児とその家族への適切な医療の提供のためには、周産期医療に関わる医師は臨床遺伝の専門的知識を身につける事が必要である。日本人類遺伝学会の臨床遺伝専門医資格を目指した講習会を行った。(計 15 回)

### (2)取組の実施体制について

各種カンファレンス、特にインターネットを用いた双方向型のネットカンファレンスの定期開催のために、九州大学病院に専任の事務補佐員を雇用しスムーズな運営を行うことができた。新たに平成 24・25 年度は臨床遺伝専門医資格を目指した講習を合計 15 回行った。また、女性医師を含めた女性メディカルスタッフの復職のサポートのために九州大学の敷地内に保育施設が設置された。平成 21 年 4 月箱崎キャンパス内に「たんぽぽ保育室」、平成 22 年 2 月伊都キャンパス内に「たけのこ保育園」、そして平成 21 年 10 月病院キャンパス内に「ひまわり保育園」が開設され、特に妊娠と出産を終えた女性メディカルスタッフの復職がスムーズになった。そして本プロジェクトにより九州大学病院の小児科・産婦人科に**毎年 3-5 名の女性医師を復職雇用**することができた。これは女性医師自身のキャリア向上に大きく寄与するとともに、多忙な周産期医療に関わる病棟・外来業務への大きな貢献となった。さらにこのプロジェクトで復職した**女性医師 3 名が、地元の病院に常勤医師として復職**することができ、地域の周産期医療に直接的な貢献ができた。

### (3)地域・社会への情報提供活動について

- ・九州地域の大学間連携による大学教育改善 FD・SD ネットワーク: Kyushu Learning Improvement Network for Staff Members in Higher Education (Q-Links) が主催する Q-CONFERENCE 2010(2011 年 2 月 19 日西南学院大学開催)のポスターセッションにおいて、本プロジェクトを広く情報発信した。
- ・市民の啓発活動を通して周産期医療について広く理解してもらうために、毎年福岡国際母子医療シンポジウムと同時開催で、九州大学病院内の九大医学部百年講堂に於いて**市民公開講座**を開催し、新生児内科、新生児外科、産科、小児歯科、子どものこころの診療部からそれぞれテーマ毎に講演を行った。講演後には一般市民からの質問に対して回答しながら理解と知識を共用することができた。

第21回福岡国際母子総合研究シンポジウム  
**第8回 市民公開講座**  
平成 22 年 8 月 22 日 (日) 午後 2:00 ~ 4:00  
場所: 九州大学病院 百年講堂 中ホール3

主題 ~ 妊娠~出産の関わりと母子のケアについて

座長 家入 憲志 (九州大学病院 小児科) 井原 健二 (九州大学病院産科産科センター 産科)

1. 胎児発育の予測 ~Hbワグチンと胎児体重ワグチン~ (小児科)
2. 小児の腹部救急疾患 林田 真 先生 (九州大学病院 小児科)
3. 妊娠中に起こる急な病気の対応について 瀬元 謙夫 先生 (九州大学病院 産婦人科)
4. こどもに見られる急性ストレス反応について 山手 孝 先生 (九州大学病院 精神科)
5. こどものお口のケアについて 堀田 俊次 先生 (九州大学病院 小児科)

● 皆様のご参加をお待ちしております。(参加費無料)

主 催: 九州大学母子総合研究センター  
後 援: 福岡県、産科助産科センタープロジェクト  
連絡先: 九州大学医学研究科産科産科センター (小児科)  
電話: 092-642-5421 FAX: 092-642-5435

第22回福岡国際母子総合研究シンポジウム  
**第9回 市民公開講座**  
平成 23 年 9 月 4 日 (日) 14:00~16:00  
九州大学医学部 百年講堂中ホール3  
福岡市東区鷹取3-1-1

主題 医療から見た子どもの育ちと生活環境

座長 家入 憲志先生 (九州大学病院 小児科) 井原 健二先生 (九州大学病院 産科産科センター 産科)

1. 住江 順子 先生 (九州大学病院 小児科) 子どもの成長-発達-環境に影響を与える環境要因を議論します! ~エコチル環境~
2. 木下 義晶 先生 (九州大学病院 小児科) 子どもが安心して医療や手術を受けられるための工夫
3. 藤原 ありさ 先生 (産科助産科センター 助産師) 妊娠中、検査や治療を受けて、赤ちゃんは大丈夫?
4. 木原 順子 先生 (産科助産科センター こころの診療科) 母親や家族のこころの健康と子どもの育ち
5. 松石 裕美子 先生 (九州大学病院 小児科) 産科からの食育支援

参加費無料! (お弁当もありません)

主 催: 九州大学母子総合研究センター  
後 援: 九州大学医学部 産科助産科センタープロジェクト  
連絡先: 九州大学医学部 産科助産科センター (小児科)  
TEL: 092-642-5024 FAX: 092-642-5644

第23回福岡国際母子総合研究シンポジウム  
**第10回 市民公開講座**  
平成 24 年 9 月 2 日 (日) 14:00~16:00  
九州大学医学部 百年講堂中ホール3  
福岡市東区鷹取3-1-1

主題 「現代のさまざまな感染症から子どもを守る」

座長 堀田 俊次先生 (九州大学病院産科産科センター 産科) 柳田 憲一先生 (九州大学病院 小児科)

1. 山下 洋 先生 (九州大学病院 こころの診療科) 感染症と子どものストレスについて
2. 穴見 蓮 先生 (九州大学病院 産科助産科) 産科助産科における母乳感染予防の取り組み
3. 西尾 善美 先生 (九州大学病院 小児科) 新しいワクチン~ロタウイルスワクチン~ 不活化ポリオウイルスワクチン~について
4. 永田 公二 先生 (九州大学病院 小児科) 手術を必要とする子どもの感染症
5. 大隈 由紀子 先生 (九州大学病院 小児科) むし歯も感染症のひとつです

参加費無料! (お弁当もありません)

主 催: 九州大学母子総合研究センター  
後 援: 福岡県、産科助産科センタープロジェクト  
連絡先: 九州大学病院 小児科  
TEL: 092-642-5422 FAX: 092-642-6466

## II. 取組の成果

### 1. 計画時における「事業の到達目標(数値目標含む)」

#### ①医師、看護師の卒前卒後一貫教育プログラム

インターネットカンファレンスシステム網を NCPR(新生児蘇生)教育、胎児治療、福岡都市圏新生児連絡会 (FMNN)、周産期懇話会、児童精神、臨床遺伝医療会議など「ゆりかごネットカンファレンス」の双方向利用を行う。5年間で10施設以上の接続を目指す。

#### ②新生児内科外科領域を含む包括的な診断、管理能力を備えた周産期専門医・看護師養成プログラム

休職中の女性医師に対して復職に必要とされる教育プログラムを提供し、一人でも多くの女性医師の周産期医療の現場への復職を目指す。年間2名を目指す。

#### ③母子の心の支援を行う“成育精神医療”専門医・看護師養成プログラム

新生児科医、小児神経科医、児童精神科医、臨床心理士による合同カンファレンスを開催し、患者さんの問題点を検討するとともに心のケアに対応できる医療スタッフの育成に努める。

#### ④(新設)臨床遺伝専門医養成

臨床遺伝の専門的知識を身につけるための講習会を行う。周産期医療に関わる医師の日本人類遺伝学会の臨床遺伝専門医資格を目指す。

### 2. 「プログラム成果」

#### ①医師、看護師の卒前卒後一貫教育プログラム

以下の15施設にe-カンファレンスシステムを設置することができた。

九州大学病院、福岡市立こども病院、九州医療センター、福岡大学病院、福岡東医療センター、産業医科大学病院、北九州医療センター、九州厚生年金病院、小倉医療センター、久留米大学病院、田川市立病院、飯塚病院、大分県立病院、別府医療センター、山口赤十字病院

このシステムを用いて、5年間合計48回のインターネットカンファレンスを定期開催する事ができた。また、福岡都市圏新生児連絡会 (FMNN)、周産期懇話会、児童精神会議、臨床遺伝医療会議を「ゆりかごネットカンファレンス」として双方向利用の教育活動に積極的に利用することができた。5年間で総計2,400名が参加した。

福岡国際周産期・母子健康シンポジウム Fukuoka International Symposium on Pediatric/Maternal-child health research (FISP/M)を毎年開催し、最先端の周産期医療と医学の研鑽を継続的に行うことができた。

#### ②新生児内科外科領域を含む包括的な診断、管理能力を備えた周産期専門医・看護師養成プログラム

シミュレータを用いた実習指導など学内の新人スタッフ対象の研修会を年間3-5回(参加者総計155名)行った。またNCPR(新生児蘇生)教育のための学内外に向けた講習会を開催することで地域の周産期医療を担う医療スタッフの教育と医療レベル向上に貢献することができた。



NCPR(新生児蘇生)教育の参加者

### ③母子の心の支援を行う“成育精神医療”専門医・看護師養成プログラム

周産期医療をとりまく「からだ」と「こころ」の幅広い分野において質の高い周産期関連知識を教育することで、国際的にも質の高い周産期関連知識を得ることができた。5年間で4名の専門医が誕生した。

### 3. 教育プログラム・コースの受入状況、専門医取得の状況

#### ①. 「医師、看護師の一貫教育」

周産期医療をリードする優秀な人材を養成し、地域の周産期体制を維持し向上させることを目的として多くの教育プログラムを策定した。特に周産期関連の新しい知見・研究の進展などをテーマとして毎月「ゆりかごネットカンファレンス」を開催し、福岡県内と大分県、山口県の総合周産期母子医療センターを中心に15施設を繋いだe-conferenceを行うとともに、福岡市内の患者状況の綿密な連携のためにインターネット会議を開催した。5年間合計48回でのべ2,400名が参加した。このプログラムにより地域の周産期医療レベルが向上し、各地域で新生児医療が完結する症例の増加により総合周産期母子医療センターのNICU病床不足が緩和し、県外への新生児搬送症例がほぼなくなった。

#### ②. 「周産期専門医師・看護師養成」

周産期医療に関わる医師看護師の特殊な専門技術や知識の習得と向上のために教育プログラムを策定し、教育計画に沿って人材育成を行った。その結果、参加者の医学技術と知識が格段に向上した。

#### ③. 「母子の成育精神医療専門医師養成」

患者さんの問題点を検討するとともに、心のケアに対応できる医療スタッフの育成に努めた。この結果、実践的な技術が短期的に習得することが可能となり、また新生児フォローアップ外来や発達育児支援などの役割を果たすことで、子どもたちの心と体の管理に貢献した。さらにこの新しい勤務体系の女性医師の復職により、他の医師の労働を大幅に軽減が可能となり、周産期医療全体の医療と医学に顕著な貢献があった。

#### ④. 「臨床遺伝専門医師養成」

遺伝性疾患を持って生まれてくる児とその家族への適切な医療の提供のため臨床遺伝カウンセリングの知識と技術を教育した。その結果、平成25年度に臨床遺伝専門医試験に6名が合格した。

### 4. 女性医師等の勤務継続支援・復帰支援の状況

女性医師の勤務を継続するための支援として、①周産期専門教育のためのさまざまな教育プログラムの提供、②保育施設の充実、③定期的な復職支援説明会、を実施した。

### 5. 医師の過重労働の軽減のための取組状況（保育施設の整備、指導手当の新設等）

学内に保育園（九州大学馬出地区：たんぽぽ保育園ほか）が設置され、女性医師が育児を続けながら大学病院に復職するための施設が整備された。また、女性医師復職や周産期スタッフの教育への各種の取組みに対して多くの医療スタッフが関わったが、それに対する指導医手当の配給など、教育上の取組みに対して初めて手当が施行された。



保育園の外観



保育園の風景

## 6. 研修会・講習会の開催状況

周産期関連の新しい知見・研究の進展などをテーマとして毎月「ゆりかごネットカンファレンス」を開催し、福岡県内と大分県、山口県の総合周産期母子医療センターを中心に 15 施設を e-conference を行うと同時に、福岡市内の患者状況の綿密な連携のためにインターネット会議を開催した。

## 7. 地域医療への貢献状況

シミュレータを用いた実習指導など学内の新人スタッフ対象の研修会を行った。また NCPR(新生児蘇生)教育のための学内外に向けた講習会を開催することで地域の周産期医療を担う医療スタッフの教育と医療レベル向上に貢献することができた。(参加者総計 155 名)

## 8. 社会への情報提供を目的としたフォーラム開催状況

市民の啓発活動を通して周産期医療について広く理解してもらうために、毎年福岡国際母子医療シンポジウムと同時開催で、九州大学病院内の九大医学部百年講堂に於いて**市民公開講座**を開催し、新生児内科、新生児外科、産科、小児歯科、子どものこころの診療部からそれぞれテーマ毎に講演を行った。講演後には一般市民からの質問に対して回答しながら理解と知識を共有することができた。**毎年 50～80 名、5 年間で 280 名が参加した。**

## 9. 本取組が学内外に与えた波及効果や、地域・関連自治体等から得た評価等

多施設(大学病院、総合周産期母子医療センター、地域周産期センター)を包括した総合教育システムの基盤ができたことで、福岡県内のみならず大分県や山口県なども含めた広い周産期医療医学診療体制が充実し、拠点病院の集約化による高度医療の充実、周産期医療に関わる医師や復職女性医師の増加など、目に見えた効果が現れている。

## 10. 「取組前」と「取組後」において、どのような「変化」や「成果」、特筆すべき成果等

この取り組み以前には、九州大学病院では短期雇用型の女性医師の復職が一部しか認められていなかった。プロジェクトにより九州大学病院に復職することができた女性医師は 5 年間で計 15 名に登り顕著な復職者の増加が見られた。さらにその成果は学内のみならず、平成 23 年度には本プログラム参加の女性医師が年度途中で地域の周産期医療を担う病院(福岡赤十字病院小児科)へ常勤医として復職した。平成 25 年度には福岡歯科大学小児科の助教として常勤の教育職に女性医師が復職した。今後も本プロジェクトで研修し、医療現場に常勤医として復職し、指導者として研修医や学生を指導する女性医師が増えてくることが見込まれる。

さらに、初期研修医にも小児科、産婦人科、小児外科全般に対する関心が高まり、周産期領域の医療を志望する医師が着実に増加しており、初期研修を終え、九州大学の小児科、産婦人科、小児外科に入局する医師数が増加した。



復職女性医師の診察風景

### Ⅲ. 評価及び改善・充実への取組

#### ① 周産期ゆりかごネットWG会議による定期評価

2 か月毎に「周産期ゆりかごネット」ワーキンググループ会議を定期開催した。この会議には、総合周産期母子医療センターの3部門(母性胎児部門、新生児内科部門、新生児外科部門)のセンター長と関連3科の科長、病棟医長、医局長、事務部門担当者(患者サービス課)により構成され、インターネットを用いたゆりかごネットカンファレンスや各種講習会の開催状況、市民公開講座の打ち合わせ、各年度の予算執行状況の確認など、多面的な評価が行われた。このグループ会議は **5年間で合計29回開催**した。

#### ② 九州大学病院執行部による最終評価

平成25年度で本事業が終了するに当たり、平成26年度からの取り組みについて病院長をはじめとした執行部と事務部を含めた話し合いが行われた(平成26年1月22日)。本プロジェクトによる女性医師の復職に関する貢献度が評価され、特に復職女性医師が病院収入にも大きく寄与しており、平成25年度単年で女性復職医師のみによる**診療売り上げが5000万円を超える**ことが紹介された。これらの実績のもと、平成26年度からは九州大学病院として本プロジェクトが継続される事が了承された。

### 中間評価結果における指摘事項

- 女性医師等の勤務継続支援・復帰支援については、女性医師が復帰し働きやすい環境作りと女性医師がキャリアプランをたてやすい全体のビジョンの提示が望まれる。今後の利用者数の増加を期待する。
- 保育施設の「給食なし」は不便である。預ける際には必ずお弁当を作らなくてはならなくなるし、緊急時には特に困る。今後改善を検討していただきたい。

### それに対する実施・改善状況

★女性復職医師が復帰するためのキャリアプランを立てるため、平成24年度から新たに「周産期女性医師復職トレーニングコース」を設け年間を通じた教育プログラムを策定した。また、女性復職医師の募集広告を学会や講演会で配布し、具体的な復職内容を掲示した。



九州大学病院 周産期ゆりかごプロジェクトは、文部科学省の「周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」採択事業として平成21年から活動を始め、次代を担う若手医師の周産期教育環境整備や女性医師の勤務継続・復帰支援の充実を行うことを目的としています。

平成24年度の復職女性小児科医師を募集しています。  
興味のある方、またはお知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、お是非問い合わせください。

【職務内容】  
小児科診療(ハイリスク児フォローアップ診療、新生児診療なども含みます)や、各種専門医の取得あるいは継続のための診療と研究などです。

【勤務時間】  
週1-5日(月-金)、勤務日/日  
勤務日や時間数はご都合に合わせて勤務可能です。当直業務はありません。  
希望により、外勤(乳幼児健診や外来応接診療)の勤務も行っていきます。

【保育等】院内保育園あります(ひまわり保育園)

【給与等】九州大学職員(学術研究員)の給与規定に従い、これまでの職歴・研究歴から換算します。

【募集人数】若干名

【勤務開始時期】平成24年4月以降、随時ご相談ください。

【応募方法】電話、メール等でご相談ください。

【その他】男性医師やフルタイム勤務を希望される方には、他の雇用形態による勤務のご紹介も可能です。また、産科や小児外科に関しても同様に募集しておりますので、ご連絡ください。

【問い合わせ先】  
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学病院 総合周産期母子医療センター 副センター長 井原健二  
TEL 092-642-5421 k-ihara@pediatr.med.kyushu-u.ac.jp  
周産期ゆりかごプロジェクトホームページ: <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/srikago/index.html>



九州大学病院 周産期ゆりかごプロジェクトは、文部科学省の「周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」採択事業として平成21年から活動を始め、次代を担う若手医師の周産期教育環境整備や女性医師の勤務継続・復帰支援の充実を行うことを目的としています。

平成25年度の復職女性小児科医師を募集します。  
興味のある方、またはお知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、お是非問い合わせください。

【職務内容】各自の専門性に合わせて、小児科とタイアップした業務内容の選択が可能です。  
小児科診療(ハイリスク児フォローアップ診療、新生児診療なども含みます)や、各種専門医の取得あるいは継続のための診療と研究などです。

【勤務時間】週1-5日(月-金)、勤務日/日  
勤務日や時間数はご都合に合わせて勤務可能です。当直業務はありません。  
また希望により、外勤(乳幼児健診や外来応接診療)の勤務も行っていきます。

【保育等】院内保育園あります(ひまわり保育園)

【給与等】九州大学職員(学術研究員)の給与規定に従い、これまでの職歴・研究歴から換算します。

【募集人数】若干名

【勤務開始時期】平成25年4月を予定していますが、本年度内の採用を希望される場合もご相談ください。

【応募方法】電話、メール等でご相談ください。

【その他】男性医師やフルタイム勤務を希望される方には、他の雇用形態による勤務のご紹介も可能です。また、産科や小児外科に際しても同様に募集しておりますのでご連絡ください。

【問い合わせ先】〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学病院 総合周産期母子医療センター 副センター長 井原健二  
TEL 092-642-5421 k-ihara@pediatr.med.kyushu-u.ac.jp  
周産期ゆりかごプロジェクトホームページ: [http://www.med.kyushu-u.ac.jp\\_yurikago\\_index.html](http://www.med.kyushu-u.ac.jp_yurikago_index.html)

★学内に設置された保育園(ひまわり保育園)の給食システムについて指摘頂いた点については早急に給食が配給できるように改善した。その結果、大学病院に勤務する医療スタッフが安心して子どもを保育園に預けることができるようになり、各人の職場において必要な業務を勤務時間内にスムーズに行うことができるようになった。

#### IV. 財政支援期間終了後の取組

##### 1. 継続実施していくのか、実施体制等

平成 24 年度から九州大学病院「女性医療人きらめきプロジェクト」の活動とも交流し、復職女性医療スタッフのキャリアを維持し向上するための継続的な人材育成と専門教育体制の整備にも努めてきた。「ゆりかごプロジェクト」終了後の平成 26 年度からは九州大学病院として周産期医療に関わる専門的スタッフの養成をさらに大きく展開していくために「女性医療人きらめきプロジェクト」とともに取り組みを継続し、**女性医師の復職に関わる雇用経費などは九州大学病院としてのサポートを継続**することになった。この様に九州大学病院全体として今後も長期的に取り組みを継続的する予定である。

きらめきプロジェクトからのお知らせ

### 九州大学病院きらめきプロジェクト 第3回講演会

参加無料

●日時：平成24年7月11日(水) 13:00～20:00

●会場：九州大学病院 コラボ・ステーション2F 視聴覚室

## 「人を生かす・自分を生かす」

### ～多様な働き方と病院経営戦略～

#### プログラム

講演時間 13時30分～19時00分

**講演者**  
 「産前産後ケアの充実と医療人財の育成・確保」  
 九州大学産科婦人科副科長 藤原 隆雄  
 産科 藤原 隆雄

**講演者**  
 「九州大学産科婦人科のプロジェクトと女性医療支援」  
 九州大学産科婦人科きらめきプロジェクト支援センター  
 センター長 藤本 真子

九州大学産科婦人科きらめきプロジェクトキャリア支援センター  
 【お問い合わせ・申し込み】  
 TEL/FAX: 092-642-5203  
 URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>  
 Mail: [kiraspro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp](mailto:kiraspro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp)  
 主催：九州大学産科  
 共催：福岡県産科連合・NPO法人九州産科システム研究機構・産科メダの株式会社・産前産後ゆりかごネットプロジェクト

無料託児ありです  
 ※1歳未満までにお申し込み下さい

参加自由です。  
 みなさまのご来場お待ちしております

#### きらめき通信 Vol.10



今回は、日本を担う健全な子どもたちを育成するために、日々奔走されている『周産期ゆりかごネットプロジェクト』をご紹介します。

みなさま、こんにちは。九州大学病院総合周産期母子医療センターの井原健二です。当センターは平成元年5月29日に国立大学医学部附属病院では初の産婦人科・小児科・小児外科が一体となった周産期母子センターとして開設され、福岡市都市圏の周産期医療ならびに臨床研究の中心的役割を果たしています。20年目を迎えた平成20年3月18日付で福岡県総合周産期母子医療センターに指定され「九州大学病院総合周産期母子医療センター」と名称が変更されました。現在、母体胎児集中治療室6床、新生児集中治療室15床を含めた病床総数59床の大規模周産期センターとして、母性胎児部門、新生児内科部門および新生児外科部門の3部門から構成される専門スタッフが協力して診療に当たっています。さて近年の周産期医学の発展とは対照的に、我が国における周産期医療体制の問題が顕在化し大きな社会的問題となっています。特に周産期医療に関わる医師不足は深刻であり、次世代を担う若手医師の教育環境や女性医師の復職に向けた労働環境と支援体制の整備が喫緊の課題です。問題解決の方策として文部科学省の国家プロジェクト「周産期ゆりかごネットプロジェクト（5年間）」が平成21年度に選定されました。採択された全国15施設（うち国立大学9施設）の中で九州では唯一である「周産期ゆりかごネットプロジェクト」は、人材育成に重点を置いた取り組みであり周産期医療に精通した女性医師を積極的に支援し優秀なスタッフを育成する環境整備に努めています。院内については復職女性医師のみならず若手研修医・看護士の個人個人の知識・技術レベル・専門性などを考慮し自由学習可能な各種カンファレンスや講義、周産期の救急蘇生トレーニング実習等を幅広く開催し、個別スキルアップ教育を行っています。さらに毎月、学外の周産期基幹病院を繋いだインターネットによる双方向型のネットカンファレンスを通して、地域の周産期医療スタッフの専門教育にも配慮しています。このプロジェクトにより九州大学病院に復職した女性医師は3年間で約17名となっています。平成24年度から「女性医療人きらめきプロジェクト」の活動とも交流させて頂き、復職女性医療スタッフのキャリアを維持し向上するための継続的な人材育成と専門教育体制の整備に努めて参ります。皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

九州大学病院 きらめきプロジェクト キャリア支援センター  
 きらめきプロジェクト  
 〒812-8582 福岡市東区高島3丁目1-1  
 TEL/FAX: 092-642-5203  
 MAIL: [kiraspro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp](mailto:kiraspro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp)  
 URL: <https://www.kyudai-kirameki.com> 2012年7月（隔月発行予定）

##### 2. 本取組において開発した人材養成モデル等をどのように普及させていくのか

本プロジェクトにより設置されたインターネット相互カンファレンスシステム機器をそのまま使用することでさらに毎月、学外の周産期基幹病院を繋いだ**インターネットカンファレンスによる地域の周産期医療スタッフの専門教育を継続する**。またこれも本プロジェクトにより設置された新生児・乳幼児の救急蘇生の器具を利用し、シミュレータを用いた実習指導など学内の新人スタッフ対象の研修会や学内外に向けた、**新生児・乳幼児救急蘇生講習会**をこれからも定期的に開催する予定である。また福岡国際周産期・母子健康シンポジウムの**市民公開講座**も毎年継続する予定である。

今後も女性医師や看護師が卒後に研修ができるような包括的かつ専門的プログラムを継続するとともに、多職種（医師・看護師・医療スタッフ）を包括した多施設（大学病院、総合周産期母子医療センター、地域周産期センター）の総合教育システムを活用し、福岡県、大分県、山口県のみならず九州全域の周産期医療と医学、診療体制の充実を目指す。

取組大学：九州大学

取組名称：周産期ゆりかごネットプロジェクト

○取組概要 高度な周産期チーム医療を実践できる人材を養成し、スタッフの労働環境を改善しながら、安全で質の高い周産期医療を継続供与する体制を確立することを目的とする。インターネットカンファレンスや救急講習会等を開催し、地域の関連施設と連携した医学教育や周産期医療システムを構築するとともに周産期医療をリードする優秀な女性医療人の養成に努めた。

### ① 医師・看護師の卒前卒後一貫教育

総合医学講義「周産期チーム医療」  
総合周産期母子医療センターカンファレンスなど  
(インターネットカンファレンスは5年間合計48回でのべ2,400名が参加)

### ② 周産期専門医師・看護師育成

新生児内科・外科症例カンファレンス (参加者総計1,353名)  
実践教育カンファレンス など (参加者総計155名)  
臨床遺伝医療部症例検討会議 など (参加者総計236名)

### ③ 母子の成育精神医療専門医・看護師養成

助産師・NICU看護師連絡会議 (参加者総計1,700名)  
新生児部門・母性胎児部門連絡会議 (29回：参加者総計625名)

九州大学病院  
きらめきプロジェクト  
(女性医療人支援事業)

カンファレンス・  
女性復職の相互交流

ゆりかごプロジェクト  
推進会議

eシステムによる相互会議  
インターネットカンファレンス

総計15施設

福岡地区周産期医療  
ネットワーク関連施設

事業終了後

女性医療人  
支援プロジェクトを  
合体し復職事業を  
継続する

+

設置されたeシ  
ステムを利用し  
教育事業を  
継続する

復職女性医師は5年間で計15名

女性医師の職場環境の改善・周産期医療の改善・地域の医師不足の改善